

第三講 氷河期から後氷期への移行

レポート課題：オリエントの自然環境について説明せよ。

前回レポート講評：オクシデント世界にとってオリエント世界の意味するもの

時代的に西洋の古典古代に先行する文明の発祥の地
地理的に東方世界を指し、「東洋」を意味する。中近東からインド、
中国までを含む

日本での使われ方は今日の中近東と重なる
オクシデント世界とは異なった宗教文化の上に立脚
イスラム教・ユダヤ教・仏教など

社会体制の硬直性

専制君主制の伝統が残る（対してオクシデントは民主政）
オクシデント世界にとっては脅威となってきた
オリエント世界に対するオクシデント世界の差別意識・構造

近代ヨーロッパ人のオリエント観

K・マルクス、『資本制生産に先行する諸形態』（草稿）

アジア的生産様式

共同体的土地所有

私的土地所有の欠如

大家族と個人の非独立

原始的共同態の残存

強靱な残存能力

低い生産性

停滞した社会

自然環境の変遷についての概観

現在の地中海地方の自然植生は後氷期に出現

太古以来の森林もせいぜい1万年の歴史でしかない
氷河期時代

古生花粉で見ると・・・

ヨモギ *Artemisia* やイネ科の雑草 *Gramineae* などのステップ性の雑草に大地は覆われていた。

ネズ *Juniperus* やナラ *Quercus ilex* などの樹木は山間の、日当たりの良い斜面の一部にかろうじて残されていた。

氷河期時代の地中海地方は今日よりも冷涼で乾燥し、大地は荒涼としていた。平均気温は10度以上低く、特に夏の気温は低かった。

氷河期から後氷期への移行期 (11,000-10,000bp)

一直線に氷河期から後氷期に移行したわけではない

ヤンガードリュアスという寒の戻りの時期が1000年ほど続く
マイナス7度以上下がる

最終氷期	21,000-13,000bp	寒冷乾燥
ベーリング期	13,000-12,000bp	温暖湿潤
オールドドリユアス期	12,000-11,800bp	寒冷乾燥
アレード期	11,800-11,000bp	温暖湿潤
ヤンガードリュアス期	11,000-10,000bp	寒冷乾燥
		夏の気温低下
プレボレアル期	10,000- 8,800bp	冷涼乾燥
		農業の開始
ボレアル期	8,800- 7,600bp	乾燥
アトランティック期	7,600- 4,500bp	温暖湿潤
サブボレアル期	4,500- 2,500bp	温暖乾燥
サブアトランティック期	2500bp-	冷涼湿潤

突然の寒冷化、乾燥化による生活環境の悪化

生存戦略としての農耕・牧畜

人類の生存戦略：コムギやオオムギ、レンズマメやエンドウ
豆などの豆類の栽培

ジェリコ・アスワド・アブ=フレイラ・アリ=コシュな

ど

同時に自然環境破壊

日本の例

江戸時代初期・・・沖積平野大開拓の時代

耕地面積 3 倍

森林伐採→大洪水を起こす（草戸千軒）

ギリシアでも

農業が始まって 1000 年ほど経ってからギリシア各地で大規模な土壌流失が生じている

{ 山の傾斜面を農業用地として利用（肥沃で水はけよし）
- テラス（棚田）保守の問題
- 洪水原（沖積平野）は利用されず

メソポタミアの例

乾燥地帯では

{ 農耕による地下水位の上昇
灌漑

↓

毛細管現象による塩分を多く含む地下水の上昇

塩地化

土地の荒廃

社会への大きな影響

日本の場合：元禄のバブル経済から享保の質素儉約へ

ギリシアでは：非常に荒廃したイメージ

マキ・プセウドマキ（灌木林）の拡大

フリュガナ（草叢）の拡大

メソポタミア：不毛地の拡大→国家形成を妨げる

後氷期の気候は一定ではない

過去 5000 年間に 12 回もの温暖な時期と寒冷な時期が繰り返し現れている。

シュメール極大期	2710-2610
ピラミッド極大期	2370-2060
ストーンヘンジ極大期	1870-1760
エジプト極大期	1470-1260
ホメロス極小期	820-640
ギリシア極小期	440-360
ローマ極大期	BC20-AD80
中世極小期	640-710
中世極大期	1120-1280
シュペーラー極小期	1400-1510
マウンダー極小期	1640-1710
現代極大期	1780-